

『あなたに与えられた務め』

'20/06/07(ライブ礼拝)

聖書箇所: マタイの福音書 5章 13-16節(新約 p.6-)

おはようございます！…いよいよ、「緊急事態宣言」も解かれ、八田西 CC でも、できれば、早くに、礼拝を再開したいと思っています。もう少しです！もう少し、お待ちいただきまして、八田西 CC でも、礼拝を再開したいと思いますので、教会からの連絡をお持ちください。できましたら、来週中に、教会として何らかの決定を下したい、と願っておりますので、もうしばらく、祈りつつ、お待ちくださいますよう、願います。…さあ、それでは、今日も、賛美をもって、礼拝を始めましょう！

<メッセージ>

皆さん、先週に学んだ内容を覚えてくださっていますか？…先週、私たちは、I テモテ1章のみことばから、「あのパウロを、天の神様は、後に続いていくクリスチャンたちの見本としてくださったのだ！」ということを知りました。そのことを訴えるために、パウロは、自分自身が受けてきた高い教養や恵まれた血統…、あるいは、世間からの評価などを挙げるのではなくて！自分が犯してきた数々の過ちや、救われた後もなお、自分が罪深い存在であることなどを挙げて、「こんな私でさえ、神は変えてくださった！」ということをもテモテに教えようとしてくれていました。…いえ、パウロだけではありません！私も、そして、あなたも…、天の神様は、後に続いていくクリスチャンたちの見本としてくださったのです。そうでしょ？

命題: みことばが教える、クリスチャンの役割とはどのようなものでしょう？

さて、それに関連して、今日、私たちが学んでいきたいことは、この聖書のみことばが教えてくれている、クリスチャンの役割について、であります。天の神様は、私や皆さんに、今、どんなことを願ひ…、期待しておられるのでしょうか？…と言いますのは、もしも、私たちが、天の神様が私たちに期待しておられることを…、“自分のなすべき務め”というものを、しっかりと理解できていたら、私たちの人生は、かなり違ったものになるからです！願わくは、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、ますます、真の神様の前に役立つ者となって…、本当の価値ある人生を歩んでいくことができますことを期待いたします。まずは、今日のみことばであるマタイ 5:13-16 を、こちらの方で読ませていただきます。

13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。

14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。

15 また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。

16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

I・地の塩としての役割！(13節)

まず、この 13-15 節をご覧くださいますと、ここでイエス様は、弟子たちに対して、例えを2つ用いて…、神を信じる者たち(≒クリスチャン)が、どのような役割を果たすべきなのか？ということの説明がなされています。その1つ目が、13節の『地の塩』であります。

●塩の役割(=役割)

「塩」というものは、私たち人間にとって、無くてはならない存在です。それは、今も…、また2千年前の

この当ても変わりありません。しかし、2千年前のこの当時、塩は、今よりもっと、貴重な存在でした。例えば、古いローマのことわざでも、「太陽と塩ほど役に立つものはない」とあったり、その昔、ギリシヤ人が、塩のことを「神」(サアイオン)と呼んだりした、ということからも分かってもらえるのではないのでしょうか？

① 味をつける！

この当時の者たちは、塩を、主に、次のような役目のために用いていました。①1つは、今と同じで、「味をつける」というものです。そして、②もう1つは、「物を腐りにくくする」、つまり、防腐剤のような役目でありました…。

まず、「味をつける」という役目ですが…、まあ、簡単に言うと、食事を美味しくすることです。味の薄いものや水臭いものなどに、塩が味をつけてくれて…、料理を美味しくし、食べやすくなります。どうぞ、皆さん、私たちの周りの人たちを見てください。すべての人たちが、その与えられた人生に満足しているのでしょうか？…私たちの周りの方たちの多くが、神様の愛や救いの喜びというものを知って、本来、神様が与えようとしておられたような…、魅力ある…、言い換えれば、「味のある…」、そんな人生を送っているのでしょうか？

⇒確かに、私たちの周りには、多くの人たちが、本当の満足や幸せというものを得ようとして…、少しでも良い暮らしをしようとして…、金銭や贅沢、地位や名誉…、そういったものを求めて、一生懸命に生きておられるように見えます。でも、残念ながら、多くの人たちは、本当の愛や喜びというものを知らずに、結局は、快楽やギャンブル…、あるいは、お酒などに走ってしまっていないでしょうか？

いつもなら、ここで、日本における、自殺率の高さなどを紹介すると思うのですが、今日は、つい最近、宝塚市で起こった事件を思い出してみてください。あの事件は、つい最近、起こったばかりなので、まだ、動機などの詳細については、ほとんど分かってはいません。しかし、確実なのは、ある23歳の青年が、自分の祖母と母親、弟、そして、伯母さんをボウガンで撃って、その内3人を死に至らしめてしまったという重大な事件であります。何と、悲惨な事件でしょう！

この事件だけではありません。去年には、「京都アニメーション」という会社に、ある男がガソリンを撒いて、放火をして、36人も人が亡くなってしまったのです。それと、つい先日も、TV で活躍していた女子プロレスラーが、SNS などで誹謗中傷をきっかけに自殺してしまった、なんていう報道がありました。…本当に、悲しい世の中です。でも、天の神様が、私や皆さんに願っておられるのは、そういった世の中にあって、本当の満足や幸せ、愛、喜びといったものを、自らの生き方をもって、知らせること…。それが、ここで言われている、「地の塩」としての役目なのではないでしょうか！つまり、私たちが遣わされている地(=今の場所)にあって、味のある(=魅力ある)生き方を送っていく！ということです。

果たして、私は…、また、あなたは周りの皆さんから見て、そのような存在になっているのでしょうか？周りの人たちが、私や皆さんのことを見て、「あの人たちは、自分と何が違う。あんな人間になってみたい…。あんな人生を送ってみたい…。自分には、何が足りない…。」そんな風に感じてくれるのでしょうか？

思えば、私が初めて教会に来た時、実際、私は、そのように感じました…。確かに、最初は、イヤイヤ行った教会でした。何となく、好奇心や義務感からと言うか…、どちらかと言うと、軽い気持ちから、教会に行きました。距離は遠いし…、「自分はきっとクリスチャンにはなれないだろう…」という思いもありました。しかし、そんな気持ちを感じつつも、続けて、教会に通うようになったのは、やはり、教会(=クリスチャン)に何らかの魅力を感じたからです！だからこそ、私は教会に続けて行って、イエス様を信じる信仰によって、救われたのです！

どうぞ、皆さん。今日のみことばの13節に注目してみてください。ここで、イエス様は、「あなたは、地の塩になりなさい！」とはおっしゃっておられません。『あなたがたは、)地の塩です！』(マタイ 5:13)と、断言しておられるのです。イエス様を信じて、救われたあなたは、今、もう既に、『地の塩』とされているので

す。教会にしっかりと通って…、聖書のみことばもすらすら暗唱できるようになって…、ノンクリスチャンのいろんな質問にも答えられるような…、「そんな訓練を積まないと、あなたは地の塩になれませんよ！」とは、イエス様は教えておられません。

ここに至るまでの文脈を振り返って見てみますと、マタイ 4:18-22 で、ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネが弟子として召されます。その後、奇蹟を期待した群衆たちが多く集まった、ということが記されています。そうして、5 章で、多く集まった群衆を前に、イエス様が弟子たちにメッセージを語られます。この時点で、イエス様に同行していた人々には、2種類の人たちがいました。①奇蹟を期待していた群衆と、②(イエスによって、召された)弟子たち。そんな状況で、イエス様は、マタイ 5:3-12 で、「八福の教え」とも呼ばれる、「天国に国籍を持つ者の特徴」を語られ、「神様によって変えられた者たちこそが、本当の幸せ者なのだ！」ということをお話されるわけですね。

今日のみことばに戻って、マタイ 5:13 の、『あなたがたは…』とは、神様によって変えられ…、救われた者たちのことを指しています。つまり、神様によって救われたあなたがたは…、もっと言うと、このような(八福の教えの)特徴を備えているあなたは、もう既に地の塩とされている！と言うのです。ですから、安心して下さい。もう既に、皆さんは『地の塩』なのです。もしも、あなたが救われているなら…、神様によって新しい者に造り変えられたあなたは、『地の塩』としての役目を果たすことができるのです。大切なのは、あなたが神様から、「救い」というプレゼントを受け取っているかどうか…、この神様の勧めに従って、『地の塩』として生きていこうとするかどうか？なのです。

このみことばが、『もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。』(マタイ 5:13b)と教えてくれているように、『塩けをつける…』という働きが、塩以外ではできないのと同じように、まだ、神様を知らない方たちに、本当の神様を知っていることの素晴らしさを伝えることができるのは…、本当の救いのことを伝える働きをすることができるのは、私や皆さん方…、つまりは、クリスチャンをおいて、誰か居るのでしょうか？居ないでしょ！だから、あなたが語っていくしか無いのです！

② 物を腐りにくくする ! = 防腐剤

次に、塩の「物を腐りにくくする」、つまり、防腐剤としての役目を考えていきたいと思います。普段、私たちが口にする食べ物、そのほとんどが、どんどん腐っていきますよね。イエス様も…、また、実は、聖書のみことばも、この世の中が、私たちが口にする食べ物と同じように、どんどん悪くなっている…、腐っていると教えるのです。例えば、イエス様が終末(=世の終わり)について語られた、マタイ 24 章に、あるように、この世の中はある意味、少しずつ悪くなっていくのです。それと同じようなことを、パウロも、Ⅱテモテ 3-4 章で語ってくれています。この世の中がどんどん悪くなっていて…、その極みが、ある意味(時間的に、少しずつそうなるわけではないので)、患難時代(=聖書によって予言されている、厳しい苦みの7年間のこと)だとも言えるかも知れません。

神様によって造られていながら、その神を神としてあがめようとせず…、感謝をしないばかりか、自分たちの作ったものを神としてあがめ…、そして、自分勝手に生き、また、自分を生かしておいてくださっている神様をも顧みようとしない…。そして、益々、人間は自分勝手に…、また、自己中心になっていきます。そして、その傾向は、どんどんエスカレートしていきます。人々は、益々、神様から離れ、罪に罪を重ねていってしまうのです…。

しかし、そんな世の中であって、私たちクリスチャンたちは、防腐剤の役目を果たすことができるのです。残念なことに、この聖書の予言通りに、この世の中は、どんどん、真の神様から離れ、ますます、罪を犯して、汚れていきます。しかし、そんな世の中であって、神様によって変えられたクリスチャンたちが自分を清くし…、神様のみことばを伝え…、伝道をして、多くの人たちのために祈ります…。それは、自分の愛

する家族や友人・知人のことだけに留まりません。職場の同僚、学校のクラスメート、また、国や自治体の指導者たちのため…(ローマ 13:1-4; I ペテロ 2:13-17)、そして、自分を迫害する敵のためにも、祈っていきます(マタイ 5:44; ルカ 6:28)。実に、そういったことが、この世の中の腐敗を遅らせ…、同時に、神様を証していくことに繋がっていくのです。

どうぞ、皆さん、できたら、Ⅱテサロニケ書をご覧ください。そこをご覧くださいますと、私たちが…、いえ、厳密には、私たちの内にいらっしゃる「聖霊なる神様」が防腐剤の役目をしている！と考えることのできるみことばがあります。Ⅱテサロニケ 2:3-7、『3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしましょう。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。5 私がまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話しておいたのを思い出しませんか。6 あなたがたが知っているとおり、彼がその定められた時に現れるようにと、いま引き止めているものがあるのです。7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。』⇒実は、ここで、『引き止めるもの(者)』という表現がありますが、これを、私たちは、「聖霊なる神様」だと考えています。

でも確かに、私たちが、この世にあって正しく生きていく時、この世が悪くなっていくことを、ほんの微力ではあっても、引き止めることができます！少しでも遅らせることができます。…だから、私たちは、ある時には、自分に与えられた塩としての役目を考える時に、例え、それが親しい友であっても、職場の上司であっても、あるいは、目上の方であったとしても…、罪を罪として正しく指摘したり…、清く生きていくことが必要なのです。例えば、大きな罪を犯したダビデ王に対して、預言者のナタンが警告したように…。

●クリスチャンが塩けをなくしてしまう時、神様から与えられる叱責の言葉は？ ⇒ 愚か！

どうぞ、もう1度、今日のみことばの 13 節 b 以降をご覧ください。そこには、『…もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。』と記されてあります。もしも、万が一、『地の塩』とされた私たちが、真の神様のことを忘れて…、あるいは、救いについて…、本当の愛というものを知らないながら、この世と調子を合わせ…、妥協して生きていくなら、それは、まさに、ここで警告されているように…、『塩けをなくしたら』、天の神様から、どのように思われてしまうか、ご存知でしょうか？実は、このみことばは、そのことについても、はっきりと教えてくれています。

実は、ここで、『塩けをなくす』と訳されている言葉は、ギリシア語の「μωραίνω(モーライノー)」という言葉で、新約聖書中、4回しか使われていない言葉なのです。ちょっと、ここで、順に、その言葉がどのように訳されているかを、確認していきたいと思えます。①まず、このマタイ 5:13 では『塩けをなくす』という風に訳されています。②次に、ルカ 14:34 では、『ですから、塩は良いものですが、もしその塩が塩けをなくしたら、何によってそれに味をつけるのでしょうか。』とあって、今日のみことばと同じように訳されています。③次の、ローマ 1:22、『彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、』、このみことばのどこに、ギリシア語の「μωραίνω」という言葉が使われているか分かってくださいますか？実は、この『愚かな…』という部分がそののです！④最後に、もう1つ、I コリント 1:20 では、『知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。』⇒さあ、今度は、どこでしょう？もう分かってくださいますよね？

実は、この、『塩けをなくす…』というように訳されている、「モーライノー」という言葉は、「効き目を無くす、(「本来の自分を無くしてしまうことから」)愚かにする…」という意味があるのです。ですから、もしも、

あなたが真の神様を知っており、本当の救いを頂いているにも関わらず…、それを証しようとしていないなら、あなたは、神様から、こう叱責されているのです。「この愚か者！」って…。

いかがでしょう？クリスチャンである皆さんは、神様によって選ばれ…、新しく造り変えられたのです…なのに、あなたは、そのことを無視してはいないでしょうか？自分に与えられた役割(=役目)を、おろそかにしてしまっていないでしょうか？神様から、「愚か者！」という叱責をいただくことはないでしょうか？⇒これに関しては、お一人お一人が、ご自分の歩みをしっかりと吟味する必要がありますよね。

Ⅱ・世の光としての役割！(14-15 節)

では、次に、クリスチャンたちに与えられた役割の第2番目を見ていきたいと思います。それは、世の“光”としての役割です。もう1度、今日のみことばの 14-15 節をご覧くださいませでしょうか？今から、お読みしたいと思います。

14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。

15 また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。

●光の役目(=役割)

こども、基本的には、塩の例えの時と同じようなことが語られてあります。光も、私たち人間にとっては、決して、欠かすことができない存在であります。光の働きも、塩と同じように、2つ、見ていきましょう。

① 物を照らして、見えるようにする !

まず、①「物を照らして、見えるようにする」ということです。もし、明かりが無くて、周りが真っ暗だったら、どこに何があるのか、私たちにはほとんど知る術がありません。…それと同じように、この世の中にも、光があるから…、つまり、私たちクリスチャンがいるから…、この世にあっても、いろいろなものが明らかにされる、と言うのです。例えば、すべてを造られた真唯一の神様のこと…、あるいは、私たち人間の内に潜む罪のこと…、あるいはまた、救いの道についてや、本当の人間のあるべき姿などが、私たちクリスチャンを通してでなければ、この世の中の方たちは、知る術がありません。そうではないでしょうか？

この世の中は混沌としています。実に、いろいろな違った考え方や、様々な価値観が溢れていて…、一体、何が正しいのか、どれが真実なのか、どういった教えに従っていくべきなのか、なかなか簡単には分かりません。しかし、そんな世の中にも、確かなものがあります。それは、一体何でしょう？⇒それは、真実なる神様のみことば…、つまりは、聖書であります！

この聖書こそは、私たちが知るべき真実を教えてくれる、唯一の書物です。例え、時代が変わろうと、歴史が変わろうと、文化が変わろうと、決して変わる事のない、真実なる、神様の御教えです。人間とは一体、何者なのか？どのように生きるべきなのか？様々な考え方や、価値観が溢れている中で、何を、どのようにすべきなのか、唯一の正しい教えを与えてくれる書物なのです。

しかし、その聖書のみことばも、こう教えてくれています。『しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じる事ができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。』(ローマ 10:14) って…。これは、つまり、私たちクリスチャンが、神様のみことばを、声を「大」にして語ることなくして、どのようにして、世の人たちが神様の教えを知っていくのか？ということなのです。

これまた、つい最近、ある報道が多くの者たちの胸を打ちました。…それは、あの北朝鮮による拉致被害者家族連絡会の代表を、長い間務めてこられた横田滋(しげる)さんが亡くなったという報道です。皆さん、知っていましたか？実は、横田滋さんの奥さん、早紀江(さきえ)さんが、私たちと同じ福音派の信仰を持ったクリスチャンであるということは、かなり有名でしたけれども、その滋さんも、2017 年にバプテスマを受けていたのです。…あのような理不尽なことを経験しながら、一体、どうやって、キリスト教の信仰に行き着いたのか、私は、あまり詳しいことは知りません。しかし、横田さんご夫婦は、当時 13 歳だった娘のめぐみさんを北朝鮮に拉致されてしまって、それでも、なお、すべてを御支配しておられる神様を信じてきたのです！このことは、日本中に大変大きな良い証しになったと、私などは思います。

ですから、私たちもまた、語っていかないといけないのです！神様からのみことばを！救いのメッセージを！一体、どこに真理があるのか、ということも！でも、具体的に、どのように語るのか？それに関しては、確かに、私たち、戸惑うことがあるかも知れませんが、だからこそ、みことばはこうも教えてくれています。ルカ 12:11-12、『11 また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。12 言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。』

⇒確かに、この当時、ある信仰者たちは信仰ゆえの迫害に遭い…、大勢の者たちの前で弁明することが必要な場合もありました。しかし、そういった時、『聖霊』なる神様が、その人たちに、語るべき言葉を与えてくださったのです！今の、私たちもある意味、同じではないでしょうか？今の私たちには、この当時(=このみことばが語られた時)と違って、当たり前のように、すべての信仰者の内に聖霊なる神様がいてくださるのです(ペンテコステ以降)！

どうか、皆さん、思い出してみてください！例えば、イエスの十字架の時には迫害を恐れていた、弟子のペテロたちは、聖霊なる神様を受けて、それ以降、勇敢に、大胆に、イエスの復活を語っていますよね(使徒 4:1-21)。また、あのステパノだって、そうです。聖書は、『彼が知恵と御霊によって語っていたので』(使徒 6:8-10)、多くの者たちが、ステパノと議論してもかなわなかったと教えます。パウロだって、そうです。例えば、使徒の働き 26 章に記されている、彼の大胆な…、見事なまでの説教(=弁明)は、まさしく、神様の御力によるものであったはずなのです(参照: I コリント 2:2-4; ペリピ 4:13 など)。

…と同時に、聖書のみことばは、こんなことも教えてくれています。I ペテロ 3:15、『むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちに希望について説明を求めらるる人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。』って…。私たちの内にある希望について…、また、信仰について、私たちは、いつでも話せるよう、用意(=準備)をしておく必要があるのです！しかし、いずれにしても、これらのみことばが共通して教えてくれていることは、「あなたにはできる！」ということなのです。そうじゃないでしょうか？大切なのは、あなたの勇気であり…、あなたが、神様を信頼することから出てくる「やる気」、あるいは、あなた自身の選択なのです！

② 警告をうながす !

次に、光の果たす役目…。それは、②「警告をうながす」ということです。その昔、人々は、一刻も早く、情報を伝えるために、ある時には光を用いました。それは、現在も、そう大差ありません。例えば、その昔は、遠くにいる人たちに、何かの合図を送る場合、光を作って、それを遮ったりすることによって、何らかの意思を伝えました。今でも、信号機などは良い例ですよ。赤は警告、黄色は注意、青は問題なし(?)というように…。

天の神様は、私たちに対して、こう、おっしゃってられます！「この世の中に警告を与えなさい！」って…。例えば、旧約聖書のエゼキエル書 3:17-19、『17 (「人の子よ。’)わたしはあなたをイスラエルの家の見張り人とした。あなたは、わたしの口からことばを聞くと、わたしに代わって彼らに警告を与えよ。18

わたしが悪者に、『あなたは必ず死ぬ』と言うとき、もしあなたが彼に警告を与えず、悪者に悪の道から離れて生きのびるように語って、警告しないなら、その悪者は自分の不義のために死ぬ。そして、わたしは彼の血の責任をあなたに問う。19 もしあなたが悪者に警告を与えても、彼がその悪を悔い改めず、その悪の道から立ち返らないなら、彼は自分の不義のために死ななければならない。しかしあなたは自分のいのちを救うことになる。』…実は、これと同じようなことが、エゼキエル書 33:7-9,11 でも教えられています。

だから、あの使徒パウロなどはこう言うわけです、『**というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならぬことだからです。もし福音を宣べ伝えなかつたなら、私はわざわざいた。**』(Iコリント 9:16)って…。

⇒聞いてくださいました？ 皆さん！「私が福音を知っていながら…、救いに至る道を知っていながら…、この福音を宣べ伝えないなら、私は、何と言う『**わざわざいた**』なのだろう？」というわけです。…果たして、私たちは、それほど思いを持って、毎日毎日、福音を語るチャンスを探しているでしょうか？昔、持っていたような…、「大勢の人たちを目の前にして、この人たちの一体、どれほどが、救いを頂いているのだろうか？」そんなことを考えて、涙ぐむようなことが、果たして、今もあるでしょうか？

だってね、皆さん。私たちは、こう信じているわけでしょ？「この神様以外に救いはない！この信仰以外に、永遠の裁きから逃れる術はない！」って…。それ以外に、私たちが、これまでに犯してきた数々の罪を清算する方法はないと確信しているわけです。私たちの醜い思い…、自分勝手な性質…、利己的な優先順位…、卑しい選択…、いい加減な生き方…、神様の恵みによって生かされているながら、真の神様を神とせず、適当に生きている自堕落な人生…、そんな罪を赦していただくには、その身代わりとなつてくださったイエス・キリストを信じる以外に、方法が無いのです！罪ある者が、私たち罪ある者の罪を赦すために身代わりになることはできません…。だって、その者は、まず、自分の罪のために裁かれる必要があるからです。私たちの罪を赦すために、身代わりに犠牲になることができるのは、罪の全く無い…、ただの1度も罪を犯さなかつた、あのイエス・キリスト以外には不可能なのです！だから、イエス様は、私たちの罪のために、死んで…、よみがえってくださったのです！

今日のみことばの、**マタイ 5:14-15** で、『**14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。15 また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。**』とあるように、私たちは、より多くの人々を照らすことができるように、(表に)出ていかないとダメですね…。いえ、隠れていたらダメなんです！もしも、私たちが、私たちに与えられた、この大きな責任をないがしろにするなら、どれほどの悔いが…、また責めが…、私たちが襲うでしょうか？どうぞ、その辺のところを、皆さんには、しっかりと考えていただきたいと思います。

Ⅲ・**究極**の**目的**！＝**役割**(16節)

最後、私たちクリスチャンに与えられた、「究極の目的」というものが、この16節で教えられています。それは、私たちが、「神様の栄光を現わしていく」ことによって、私たちの周りの方たちが救われていく、ということであります。どうぞ、今日のみことばの16節をご覧ください。そこには、こう記されています。

16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

イエス様は、今日のみことばの13-15節で、2つの例えを用いて、クリスチャンたちの果たすべき役割について、明確に教えてくださいました。まずは、『**地の塩**』(マタイ 5:13)の例えから…、①味をつける、②

物を腐りにくくするということ…。そして、『**世の光**』(マタイ 5:14)という例えから、①物を照らして、見るようにする、②警告をうながす、ということでした。そして、続く16節には、これらの究極的な目的について、こう記されています。そこには、何とありました？⇒**マタイ 5:16**、『**このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。**』って…。

⇒みことばは、このように教えます。神様は、私たちを、この世に遣わされました。それは、この世の中であって、救いを必要としている人たちの「道しるべ」とするためです。そうですね？塩の例えでもあったように、私たちが味のある…、魅力のある人生を送ることによって、人々は気付かされるのです。…光の例えでもあったように、**人々に道を示し、警告を与える**ことによって、私たちは、この世の中であって、正しい「道しるべ」となることができるのです！

…ということは、こういうことなのです。敢えて言わせていただきますと、どれほど、皆さんの内側にある信仰が素晴らしいものであろうと…、あるいは、どれほど、私たちが、素晴らしい神様を伝えようとしていようと、主のみこころにかなった、皆さんの行ないが無いと、ここで、神様の期待しておられるようなことは起こらないのです！主なる神様の御計画は、救われたあなたを通して…、神様を思うあなたの行ないを通して…、言い換えますと、あなたの生き方を用いて、人を救おうとされているのです。

このみことばで、ウィリアム・パークレーという神学者が、このようにコメントしています。「我々の信仰はすべての人に認められるものでなければならない。この信仰は、ただ教会の中だけで認められるものであってはならない。教会の中だけでしか役に立たない信仰はほとんど誰の役にも立たない。我々の信仰は、地上における日常生活の中で、一層明らかに認められなければならない。売り場の店員に接する態度、レストランで食事を注文する時の態度、部下を扱う態度、上司に仕える態度、毎日使うことば、読む書物、これらの中に我々の信仰が認められなければならない。クリスチャンは教会におけると同じく、職場、教室、家庭、道路においてもクリスチャンでなければならない。イエスは、「あなたがたは、教会の光です」と言われず、「あなたがたは、世界の光です」と言われたのである。」

いかがでしょう？パークレーの言わんとすることは分かりますよね。幾ら、あなたが、**この教会の中で、評判の良いクリスチャンであつても…、あるいは、数多くのクリスチャンたちから高い評価を受け尊敬されているように…、未信者の中で、その証しが現われていないなら、意味が無い**というのです！

このみことばでイエス様もおっしゃっておられることは、「神は、あなたを教会へ遣わしたんじゃない！救いを必要とする人たちが、周りにたくさんいる…。そんな世の中に、あなたを遣わされたのだ！だから、あなたは、この世に対して、良い証しをしていかないといけない！」ということなのです。

正直、そうは言っても、確かに、このことは難しいことです。大変なことです。でも、だからこそ、私たちに、聖霊なる神様が、私たちの内に与えられているのです！「どのように生きていけば良いか分からない…。」だから、こんなにも、分厚いみことばが与えられているのです！

大切なのは、与えられたみことばを1つ1つ学んで…、そして、実践していくことです。神様から、指摘された罪を、1つ1つ悔い改めて、清めていただくことです。そうすることによって、あなたはもっともっと、神様に用いられることの素晴らしさを学んでいけるはずですよ。そうしていく時に、あなたは、自分が生かされている目的をよりはっきりと覚え…、そのために、益々、邁進していけるはずですよ。

そして、まだ、**イエス様を信じておられない皆さん…**。天の神様は、あなたのことを愛し…、あなたの周りにも、クリスチャンの証し人を置いてくださっているはずですよ。それは、神様があなたを愛し…、あなたが救われることを願っておられるという証しであります。どうぞ、できましたら、1日にも早く、真の神であり、救い主でもあられる、このイエス・キリストを信じて、救われていただきたいと思います。最後に、お祈り～

1 「マタイ福音書く上」(ヨルダン社)ウィリアム・パークレー著(松村あき子・訳)のp.132